

# 目 次

はしがき

## 第 1 部 | 法・法学

1 講	法律の条文を読み解く	2
	① 法律条文のむずかしさ	2
	② 法律条文のしくみ	5
	③ 法律条文の表現と法の実在形式	7
2 講	判決とは何か	11
	① 判決への入口	11
	② 訴訟のプロセス	12
	③ 訴訟における法の論理	14
	④ 判決の種類	15
	⑤ 判決の効果	16
3 講	法を解釈する	20
	① 法律解釈の必要性と基準	20
	② 法律解釈の種類	22
	③ 法律解釈の「正しさ」	25

## 第 2 部 | 憲 法

4 講	憲法とは何か	30
	① 主権国家と憲法	30
	② 立憲主義とは	31
	③ 憲法は国家の最高法	32
	④ 憲法の基本的な価値は「個人の尊重」	33
	⑤ 日本国憲法が制定されるまで	33
	⑥ 日本国憲法の基本原理	36
	⑦ 憲法の改正と国民投票法	38

5 講	平和主義と安全保障	41
	① 日本国憲法における平和主義	41
	② 憲法9条の戦争放棄・戦力の不保持・交戦権の否認	41
	③ 自衛隊は戦力か、自衛権の範囲内か	43
	④ 自衛権の許される範囲：個別的自衛権と集団的自衛権	44
	⑤ 自衛隊の国際貢献	45
	⑥ 安全保障関連法の成立と集団的自衛権	46
6 講	基本的人権の保障	48
	① 基本的人権とは	48
	② 国家権力から人権を守る	49
	③ 社会的権力から人権を守る	50
	④ 人権が侵害された場合の救済方法	53
	⑤ 憲法尊重擁護義務	54
7 講	男女の平等と個人の尊厳	57
	① 夫婦別姓と氏名権	57
	② 法の下での平等と性別などによる差別の禁止	58
	③ 男女の平等に関する問題	60
8 講	表現の自由とその限界	65
	① 表現の自由の意義	65
	② 表現の自由の制約	66
	③ ヘイトスピーチとは	66
	④ 象徴的言論とは	68
9 講	思想・良心・信教・政治的行為の自由	71
	① 信教の自由と政教分離の保障	71
	② 信教の自由と政教分離の調整	72
	③ 思想・良心の自由の保障の意義	73
	④ 憲法19条の思想・良心の自由とその制約	74
	⑤ 国旗・国歌の問題	74
	⑥ 集合住宅への政治ビラ配布と憲法21条	
	——立川反戦ビラ配布事件と葛飾政党ビラ配布事件	74
	⑦ 国家公務員の政治的行為の制限	
	——社会保険庁職員政党機関紙配布事件と猿払事件	76

10講	生存権・社会権の保障	77
	① 高齢加算の廃止から憲法25条の生存権を考える——高齢加算廃止訴訟	77
	② 憲法25条で保障されている生存権とは何か	79
	③ 社会権とは何か	80
11講	権力分立の意義	85
	① 権力分立の意義と三権分立	85
	② 日本国憲法における権力分立	86
	③ 裁判所の民主的正統性と違憲立法審査権の正統性	92
12講	代表民主制と直接民主制	94
	① 国民主権と国民代表	94
	② 地方自治の本旨と直接民主制	96
13講	国民主権の原理と参政権	100
	① 参政権はどのような意義をもっているか	100
	② 国民主権とはどのような原理か	104
	③ 間接民主制と選挙に関する原則	105
	④ 選挙制度のしくみ	106
14講	大統領制と議院内閣制	108
	① 議会優位型のヨーロッパと司法権優位型のアメリカ	108
	② アメリカの大統領制とイギリスの議院内閣制	109
	③ 日本の議院内閣制	111
	④ 権力の分立と権力の配分	113

## 第3部 | 民 法

15講	民法とは何か	116
	① 民法とは	116
	② 私法の一般法としての民法	116
	③ 民法と民法典の構造・展開	119
	④ 民法の歴史——そして改正へ	123

16講	契約という行為	125
	① 契約の成立と契約からの解放	125
	② 不動産を買う	135
17講	借金・損害賠償と民法	141
	I 借金をする	141
	① 債権と債務	141
	② 保証	142
	③ 時効	145
	II 人にけがをさせる	148
	III 不法行為法	150
	① 要件	150
	② 過失相殺	151
	③ 使用者責任	152
18講	民法と家族	155
	I 父親	155
	① 嫡出推定	155
	② 親子関係不存在	156
	③ 法律上の親子か血縁上の親子か	157
	II 相続	158
	① 法定相続	158
	② 相続人となる者とその取り分	159
	③ 相続人の資格を失う者	160
	④ 具体的相続分	161
	⑤ 放棄と承認	163
	⑥ 遺産分割	165
	⑦ 遺留分	167
	III 結婚(婚姻)	169
	① 結婚とは	169
	② 婚姻の要件	169
	③ 婚姻の効果	172

## 第4部 | 刑 法

19講	刑法の意義と犯罪論体系	176
	① 刑法の意義	176
	② 刑法の特徴	177
	③ 刑法解釈学の意義	179
	④ 犯罪論体系	181
20講	刑罰の種類と機能	186
	① 違法行為に関する3種の責任	186
	② 日本の刑法の刑罰	189
	③ 刑罰の正当化理論	191
21講	犯罪の要件とその認定	196
	① 犯罪の認定	196
	② 違法性の質量	199
	③ 可罰的違法性	201
22講	責任原則と責任要素	204
	① 第3の成立要件	204
	② 責任原則の不可欠性	206
	③ 有責性の要素	209
23講	刑事訴訟手続の流れ	215
	① 争訟の意義	215
	② 刑事訴訟手続の流れ	216

## 第5部 | 裁判所と法律家

24講	裁判所のしくみ	228
	① 地方裁判所と簡易裁判所	228
	② 家庭裁判所	230
	③ 高等裁判所	231
	④ 最高裁判所	232
	⑤ 陪審裁判・参審裁判・裁判員裁判	235

25講 法律家.....237

- ① 法律家 237
- ② 弁護士 238
- ③ 裁判官 241
- ④ 検察官 243

26講 裁判以外の紛争解決方法.....247

- ① 紛争解決の様々な方法 247
- ② A.D.R. 248
- ③ A.D.R. の実際：交通事故紛争処理センター 251
- ④ 「裁判外紛争解決手続の利用の促進に関する法律」 253

索引